

公開セミナー報告要旨（平成 23 年 2 月 8 日）
中国の農業農村政策の現状と今後の方向

農業部農村経済研究中心 劉 光明氏

中国では農業農村問題を議論するときは、通常、“三農”という言葉が用いられます。“三農”とは、農業、農民、農村のことです。

“三農”問題について私見を述べれば、まず農業については食糧生産が主な問題です。中国は、今後、作付面積の確保と単収増によって95パーセントの自給率を維持していくこととしています。

農民については所得の問題が重要です。中国の農民所得増加率は2010年において1998年以来初めて都市住民の増加率を超えました。これによって、都市農村住民の所得格差はわずかですが縮小しています。

農村については生活文化環境を改善することです。社会インフラ、社会保障、教育、医療、文化に関する改善、整備が必要で、そのための資金投入が予定されています。

さて、中国では、2004年から毎年1号文件（毎年最初に中共中央から出される政策文書）で“三農”政策の基本的方針が示されるようになっており、今年で8年目になります。

今年の1号文件の題名は、「水利改革発展に対する決定」です。これまでの1号文件が“三農”問題全般を対象としていたのに対して、今年を対象が水利に限定されました。しかも、従来の1号文件では「・・・に関する意見」とされていたのですが、今年「決定」となっています。対象を限定して、拘束性の強いものとなっているのです。

今年の1号文件では、2つの量的要求があります。1つは今後10年の水利への年平均投資を2010年（2000億元）の2倍にするということです。もう1つは土地譲渡益の10パーセント（600～800億元）を農地水利建設にまわすということです。

今年の1号文件で水利が取り上げられた背景としては、まず中国の水資源が少なく、分布が偏っているということが挙げられます。揚子江以南は水があるのですが、華北地域は水が不足しています。また、中国では、水が農業にとっての伝統的な制約要因であるということです。水がないために農業生産を拡大させていくことができません。さらに、特に近年は農業水利に対する資金と労働の投入が不足しているということです。このために水利施設の整備、維持に問題が起きています。

ここで、過去の7つの1号文件から中国の“三農”政策の流れを追っておきたいと思います。

最初の2004年は農民所得の増加が主要なテーマとされました。2005年は農業生産能力の向上です。2006年には新農村建設が謳われました。2007年は現代農業建設です。2008年は農村インフラ建設が重視されました。2009年はやや特殊で、金融危機対応が喫緊の課題となり、「金融危機下の農業の安定的な発展」が目標とされました。2010年は農業発展基盤の強化が強調されました。

以上の1号文件のテーマは、中国の“三農”問題のその時々課題をよく表したものになっています。

最後に今後の政策方向について述べておきたいと思います。

中国の農業分野での最高レベルの会議は毎年開催される農村工作会議ですが、2011年の農村工作会議では、①“三農”投資の拡大、②農産物供給の確保、③流通効率の向上、④農業の物的装備の向上、⑤農村生活環境の改善、⑥農村改革の深化の6つが六大任務として強調されています。

そうした中で、食糧生産の確保、農民所得の向上、農産物の安定供給という目標は、今後とも政策の枠組を形作る基本的目標となるものです。

（文責：河原昌一郎）